

今年の十五夜(中秋の名月)

10月4日(水)

九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No. 305

2017(平成29)年9月6日(水)発行



小高区ゆかりの作家・生誕百年 島尾敏雄が今また注目です！■島尾敏雄(1917～1986)は横浜生まれ。両親は小高区出身。奄美での数奇な極限の特攻隊体験『出発は遂に訪れず』や、妻の狂気や家族の重い日常を描いた『死の棘』など。■妻ミホの評伝『狂うひと』(梯久美子著)、奄美群島での敏雄とミホの出会いや愛の映画『海辺の生と死』(越川道夫監督・満島ひかり主演)が7月29日封切り。■小高区浮舟会館「埴谷島尾記念文学資料館」は全国唯一で訪れる人も多い。○敏雄は、「国家の工ゴや打算で始まる戦争の愚かさ、無意味さを訴えている」の一面も。

南相馬市の「憲法」配布「朝日新聞」社説に二度目の掲載

◇これは7月23日付『朝日新聞』の社説(一部)ですが、南相馬市の「憲法」配布について論述しています。◇この「憲法70年」の記述取材のため、6月30日、朝日新聞大阪本社から、社会社説担当の加戸靖史(かどやすふみ)論説委員が、南相馬市の本会事務局を訪ねてきました。◇平田会長、事務局の志賀勝明、山崎健一、会員の小川尚一市会議員が対応し、「憲法」冊子配布を陳情したいきさつや、大震災の被災市民の様子や小高区の状況などを説明し、それがこのような社説になりました。◇なお、「憲法」配布についての『朝日新聞』社説掲載は、昨年11月3日付に続いて二度目です。

社説

7月23日付『朝日新聞』の社説(一部)

Editorials

憲法
70年

「原発と人権」問い直す

東京電力福島第一原発の20年が過ぎ、大半の地域で避難指示が解除されて12年で1年がたった。商店や学校は徐々に再開され、登下校時は高校生たちの声が響く。一方で、シャッターを下ろしたままの店や、庭に草が生い茂った家も目立つ。

市によると、12日現在の小高の居住者は2046人。11年の原発事故当時の6分の1弱だ。憲法が保障していたはずの「ふつうの暮らし」を、原発事故は多くの人が奪い去った。

事故が問うた本質

漁師の志賀勝明さん(68)は小高への帰還を断念した。海岸近くに建てたばかりの自宅は津波で浸水した。事故後、立ち入りを禁じられた間に荒れ果て、解体を余儀なくされた。

志賀さんは言う。「自分だけじゃなく、地域のすべての人の人生が変わった。生存権とか、基本的人権とか、憲法の本質的なものを考えさせられたよ」

南相馬市は昨年5月、金世帯に憲法全文の小冊子を配った。小高出身の憲法学者、鈴木安蔵が終戦直後にまとめた憲法草案要綱は「国民の健康ニシテ文化的水準ノ生活ヲ営ム権利ヲ有ス」と生存権を明記し、現憲法25条につながった。多くの市民の生活が暗転したなか、原点を再認識してほしいとの思いが、桜井勝延市長にはあった。

福島県では今も数万人が県内外で避難を続ける。長年のなりわいや家屋を失った人は数え切れず、居住、職業選択の自由(22条)、財産権(29条)の侵害は著しい。多くの子が故郷の学校に通えなくなり、教育を受ける権利(26条)も揺らいだ。そして何より、事故は多くの人を「関連死」に追い込んだ。

「原発事故で、憲法に書いてある生活ができなくなった。これは憲法違反でしょう」。桜井市長は語気を強めて言う。

よりどころは憲法

◇さらに加戸記者は、8月18日付『朝日新聞』「社説余滴」で、「核が踏みこむもの」と題して、原発事故で憲法が踏みこまれている具体的な市民の例を述べ、核兵器も原発も「個人の尊重」(憲法13条)という至上原理と矛盾する存在ではないか、と訴えています。



No. 305

Voice 声 100年

会員の新聞投書

▼2017年7月20日『朝日新聞』掲載

東電よ 福島県民と向き合え

無職 山崎 健一
(福島県 71)

東京電力の会長と社長が先月

交代した。彼らの発言や姿勢
に、福島第一原発事故の被災者
として憤りを募らせている。就任後、全町避難が続く福島
県双葉町の仮庁舎(いわき市)を訪ねた小早川智明社長は「一
部で避難指示が解除された」と
発言。被災地の地理さえ理解し
ていないことを露呈した。10日の原子力規制委員会では
川村隆会長が「福島への責任」
を問われ、「新しいタイプの原
子力が動かせることを見せる責
任がある」と発言し、新潟県の
柏崎刈羽原発再稼働への意欲に
すり替えた。第一原発の廃炉に向けた覚悟も曖昧で、田中俊一
委員長は「福島県民と向き合っ
ていない」と厳しく批判した。東電は、第二原発の廃炉にも
「検討する」と答えるだけで、
原発の存在が住民帰還の阻害要
因であることを全く分かってい
ない。さらに、会長はトリチウ
ムを含む処理水の海洋放出を決
めたとも発言した。知人の漁師
たちの6年半の苦難を見てきた
が、怒りは収まるまい。国民の
健康への不安を高め、全世界に
海洋汚染の無責任さを示すこと
になる。
今更だが、国内最悪の原発事
故を起こした責任を厳しく自覚
し、住民が納得できる収束のた
めに、謙虚に出直してほしい。12月2日(土) 原ノ町駅前マルチメディアホールで
中村敦夫 独り朗読劇「線量計が鳴る」公演◇3・11の原発事故は「戦争に匹敵する困難」ととらえ、台本に3年
をかけ、「人災」の責任を明らかにし、原発は要らないと福島弁で訴え
る。◇全国で11公演。被災地南相馬市公演にも期待が高まります。○7月3日(日)福島県九条の会・全県交流集会が、郡山市中央公民館で開かれ、本会
から平田会長、石田賢二、志賀勝明、山崎健一が出席。○県内の10の「九条の会」がそ
れぞれ活動報告を行い、中通りや会津の会は「9の日行動」など熱心な活動ぶりで、見做う
ことも大変多いと感じました。○本会も約10分間、山崎が日頃の活動を報告しました。

《事務局より》

支持率低迷の安倍政権で、「憲法改悪はもう
できないよ」という楽観的な人と、「いやいや、
アベのことだから油断できない。居直って一強
の今のうちにやってしまうかも。9月から警戒
が必要だ」という人も。どうでしょう？

北朝鮮の爆走に「断固たる対応」ばかりで、

「対話」「外交」などの考えなし。8月29日朝の
「Jアラームはまるで空襲警報だ」と言う方も。
ミサイルは上空550キロで、政府による爆りす
ぎです。防衛費も過去最大の5兆2551億円。国連軍縮会議に、高校生の演説見送り。すべ
て日本はアメリカの盾で、言い成りです。

《「はらまち九条の会」事務局 市外局番はTEL0244》

シリアにも
平和を!

アレックスの石鹸

○会長: 平田慶肇(ひらた けいいち) TEL24-1211・FAX24-4825

○事務局長: 早坂吉彦 〒975-0016南相馬市原町区仲町2-161 TEL22-0326

○事務局次長: 山崎健一 TEL090-7527-5453 Eメール: yamazakiken1@gmail.com

○会計: 井上由美 〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43井上薬局内 TEL22-7511・FAX26-0892

○石田賢二 TEL080-5556-4037 ○番場恵子 TEL22-0715 ○志賀勝明 TEL090-9530-5524

○HP: 大浦祥見 TEL24-0704 ○栗村文夫・桂子 TEL090-8851-6904 ○田中徳雲 TEL090-2796-4066